

要支援認定者を再び自立維持に戻す！
注目の短期集中予防サービス

リエイブルメントとは



医療経済研究機構
Institute for Health Economics and Policy



国際長寿センター

主催：医療経済研究機構 政策推進部／国際長寿センター
協力：（株）社会保険出版社

要支援・軽度要介護者サポートの発想転換を！

“してあげる介護”から、“もとの生活にもどす支援”
The リエイブルメント

特別編集：神原 英樹／登山 弘子
編集：社会保険出版社健康増進部
国際長寿センター
発行：社会保険出版社

総合事業の成果を出し、
介護保険サービスの利用軽減を目指す
実現可能なヒントがここに！

The complex block contains a promotional graphic for 'The Reablement' (リエイブルメント). It features a red header with the text '要支援・軽度要介護者サポートの発想転換を！'. Below this is a white box with the title '“してあげる介護”から、“もとの生活にもどす支援” The リエイブルメント'. The graphic includes a list of editors and publishers, a call to action about integrated services, and four illustrations depicting various activities: golfing, gardening, sweeping, and bathing in a hot spring.

サービス提供原則から脱却 → Well-beingを追求

2010年代からの世界の潮流

2010年代に西欧先進国では、高齢化の進展と低成長の中で高齢者が社会的役割を果たすことが期待され、高齢者支援の分野においても大きな改革が同時多発的に進められてきました。

パーソンセンタードアプローチ

「できないことをしてあげる」支援者視点から
「できること・したいこと」に着目する本人視点へ

アセットベースド・アプローチ

地域にあるものを活用する支援



海外の高齢者
介護・地域支援情報

“してあげる介護”から
“もとの生活をとりもどす支援”へ



community support for the sake of people



国際長寿センター
2021年10月

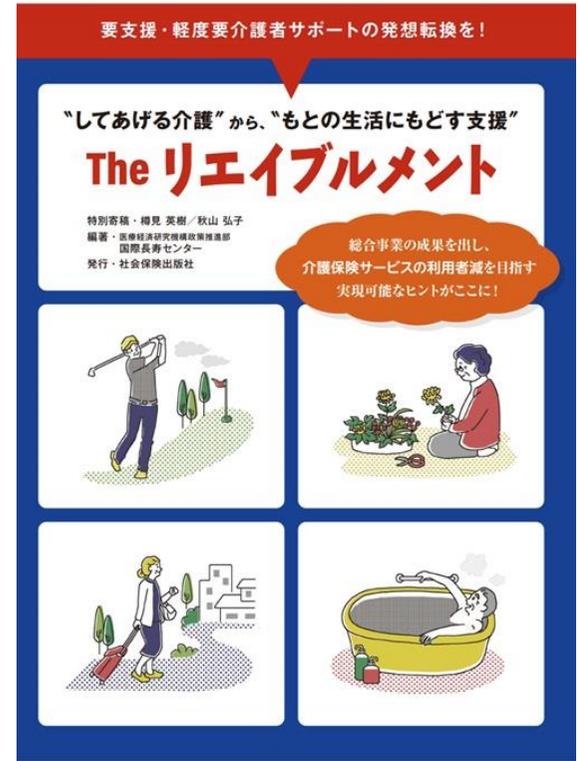
リエイブルメントの背景

高齢化率が日本よりも低い段階において、イギリス、オランダ、デンマーク、オーストラリアなどではwell-beingを重視し、中・重度者への長期介護システムとは別に軽度者・回復可能者については積極的に社会とのつながり回復を支援していくシステムを整備するという抜本的な改革が行われました。

リエイブルメント・サービスは、**期間限定のサービス**であり、**リハビリテーション専門職を中心とした集中的な介入により、身体機能の回復だけでなく、社会生活の回復も目標とすることが特徴のサービス**です。

「リエイブルメントは個々人のQOLの向上を目的とした新しい方法論として提唱されてきたということです。（中略）」

この背景には、**緊縮財政による支出削減を目指すという外的要因もありますが、何よりも利用者のQOLや生活能力の向上に資する**という意味で、なくてはならないサービスとなりつつあります。」
～社会保険出版社刊「THEリエイブルメント」より



「THEリエイブルメント」社会保険出版社



お問い合わせQRコード

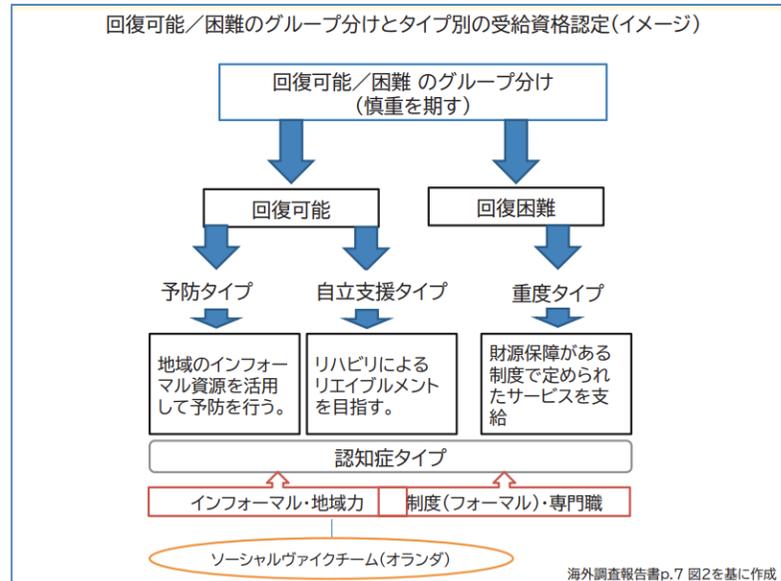
リエイブルメントのエビデンス：海外の状況

海外の実施状況

イギリス、デンマーク、オランダ、オーストラリア、アメリカ、ニュージーランド、スウェーデン、ノルウェーなどで実施。

- ・ ユーザーの**63%**が 12 週間以内にサービス不要な状態へ
(英国国立医療技術評価機構)
- ・ 8~10週間のリエイブルメントサービスにより**約65%**が在宅ケアが不要に
(オーストラリアRCT研究)
- ・ 改善可能と判定された人の**60%**が訪問介護看護を必要としない状態へ
(デンマーク)

出典：社会保険出版社「THE リエイブルメント」



日本における介護予防の推進

介護予防の推進

介護予防の理念

- 介護予防は、高齢者が要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止を目的として行うものである。
- 生活機能(※)の低下した高齢者に対しては、リハビリテーションの理念を踏まえて、「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけることが重要であり、単に高齢者の運動機能や栄養状態といった心身機能の改善だけを目指すものではなく、日常生活の活動を高め、家庭や社会への参加を促し、それによって一人ひとりの生きがいや自己実現のための取組を支援して、QOLの向上を目指すものである。

※「生活機能」…ICFでは、人が生きていくための機能全体を「生活機能」としてとらえ、①体の働きや精神の働きである「心身機能」、②ADL・家事・職業能力や屋外歩行といった生活行為全般である「活動」、③家庭や社会生活で役割を果たすことである「参加」の3つの要素から構成される

これまでの介護予防の問題点

- 介護予防の手法が、心身機能を改善することを目的とした機能回復訓練に偏りがちであった。
- 介護予防終了後の活動的な状態を維持するための多様な通いの場を創出することが必ずしも十分でなかった。
- 介護予防の利用者の多くは、機能回復を中心とした訓練の継続こそが有効だと理解し、また、介護予防の提供者も、「活動」や「参加」に焦点をあててこなかったのではないかと。

これからの介護予防の考え方

- 機能回復訓練など的高齢者本人へのアプローチだけではなく、生活環境の調整や、地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくり等、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスのとれたアプローチが重要であり、地域においてリハビリテーション専門職等を活かした自立支援に資する取組を推進し、要介護状態になっても、生きがい・役割を持って生活できる地域の実現を目指す。
- 高齢者を生活支援サービスの担い手であると捉えることにより、支援を必要とする高齢者の多様な生活支援ニーズに応えるとともに、担い手にとっても地域の中で新たな社会的役割を有することにより、結果として介護予防にもつながるといふ相乗効果をもたらす。
- 住民自身が運営する体操の集いなどの活動を地域に展開し、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進する。
- このような介護予防を推進するためには、地域の実情をよく把握し、かつ、地域づくりの中心である市町村が主体的に取り組むことが不可欠である。

出典：厚生労働省

厚生労働省からは、「これからの介護予防の考え方」として4点が示されています。

これは、イギリスやデンマーク等のリエイブルメントと共通の考え方です。特に、「生活環境の調整や、地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくり等、高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスの取れたアプローチ」が重要で、地域においてリハビリテーション専門職等が「自立支援に資する取組を推進」を担い、介護予防を「地域の実情をよく把握し、かつ、地域づくりの中心である市町村が主体的に取り組むことが不可欠である」とする3点は、世界共通のリエイブルメントを実現するための条件です。

リエイブルメントのエビデンス

国内の実施状況

大阪府寝屋川市、山口県防府市、愛知県豊明市のほか、実施自治体は増加している。東京都では短期集中予防サービス強化推進事業として本サービスを推進している。

寝屋川市においては新規要支援認定者の41%、すでに認定を受けている人でも20%が卒業。

防府市のモデル事業では66%の利用者が介護専門職サービスが不要な状態となった。

寝屋川市における調査研究事業の概要

目的

通所型サービス（短期集中）の効果を検証し、その結果を反映した総合事業を実施することで高齢者の介護予防・自立支援の推進につなげる。

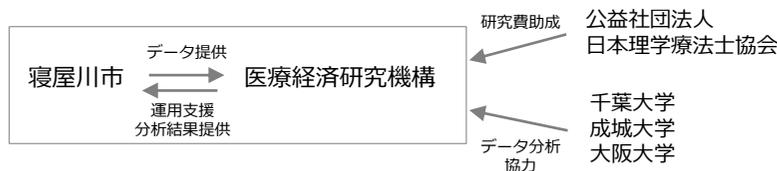
調査対象者数

RCT研究 要支援者600人（介入群300人、対象群300人）

実施主体等

<研究代表者> 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構 服部真治

<協力> 千葉大学（予防医学センター社会予防医学研究部門 近藤教授）、成城大学（大学院経済学研究科 河口教授）、大阪大学



調査研究名称 Evaluation of effectiveness of preventive rehabilitation programs for the frail elderly utilizing expertise of physical therapist in care prevention and daily life support local initiatives operated by Neyagawa city in Osaka

リエイブルメントサービス：国内の状況

<寝屋川市> 短期集中予防サービス 利用者の変化



(24秒)

サービス開始前の 初回測定の様子



H氏 初回測定

60代後半男性で、軽度の右片麻痺、中等度以上の痺れがある状態で、常に痺れについて気にする発言が聞かれた。気持ちも前向きになれず、日常生活における活動も低下、地域への社会参加はほとんど見られない状態だった。



(16秒)

利用終了時の様子



H氏 3ヶ月後

短期集中予防サービスにおける毎回の面談（本人の強みに焦点をあてたフィードバックを繰り返す）により、少しずつ自律的な活動が増えていき、娘が好きなアーティストのコンサートにも大阪・東京間と一緒に帯同するなど自信と意欲を取り戻していかれた。



(2分17秒)

その後の地域での日常 (偶然まちでお会いする)



H氏 8ヶ月後

妻と朝マックをしているところに遭遇。週に1回2時間のボランティアに行っているとのこと。理由を聞くと、自宅で時間を持て余しているより地域で役割を持ちたいという思い、そして何よりみんなを元気にしたいという思いで行っていると言ってくれた。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001085690.pdf>
厚生労働省：地域づくり支援ハンドブック

厚生労働省は、リエイブルメントという言葉を用いてはいませんが、介護予防の理念、考え方を実現するために総合事業において例示された短期集中予防サービスや、介護予防ケアマネジメントにおける地域リハビリテーション活動支援事業を活用したリハビリテーション専門職の同行訪問は、まさにリエイブルメントの日本版と言えます。

防府市における取組み動画



年齢：80歳代
性別：男性
疾患名：脳梗塞
左網膜剥離
白内障
糖尿病

脳梗塞で2週間程度入院 幸い麻痺は軽微だったが
退院後は毎日やっていた畑仕事や月に5回も行っていた
友人とのゴルフにも行かず引きこもっていたため家族が心配
リエイブルメント型短期集中予防訪問サービスを導入しました

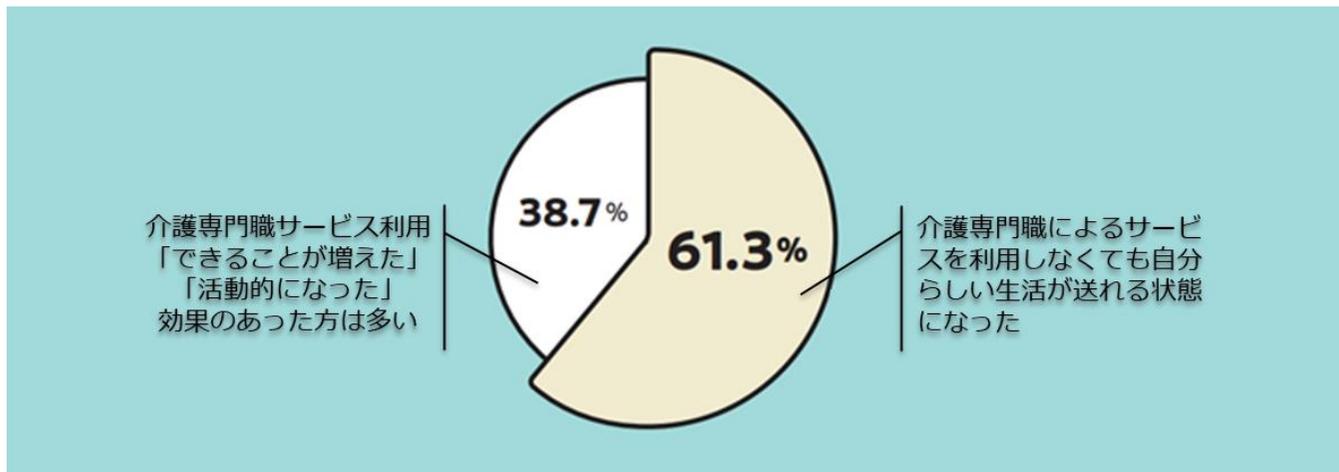
80代の男性が脳梗塞による入院後、閉じこもり気味だったところから、3ヵ月12回のサービスにより自信と役割を取り戻し、好きなゴルフに復帰するまでの取組みに密着。

※防府市では訪問サービスは実施していません。
サービスの全容をお伝えするために作成したものです。



YouTube配信中





要介護認定率
20.8% → 17.7%

※要介護1も低下

要支援等のサービス費用額
約20%削減

単に1事業所のサービスとして実施するのではなく
総合事業・包括的支援事業を有機的に連動させる「あるべき姿」
を構築し、地域全体で高齢者の生活を支える体制を効率的に実施